

日本文化宣教協力会 ニュース

発行：日本文化宣教協力会事務局
2014年10月16日発行 第4号

Vol.4

中部地区牧師会懇親会にて

尾張旭教会牧師 野口恭一

この度、高橋敏夫先生をお送り下さり、ありがとうございました。先生が中部に来て下さることをお聞きして、牧師会でも、ぜひこの機会にお交わりをと思い、計画を致しました。日曜のご奉仕を終え、和田先生ご夫妻、服部先生、

平井聖歩先生、野口が集まり、高橋先生と夕食を共にし、久しぶりにじっくりお話しすることができました。食事の後は、近くの健康温泉にて、裸のお交わり。温泉に入り、岩盤浴で疲れをとり、信仰のことや牧会のこと、高橋先生を中心にお話を伺い、気が付いたら夜の12時でした。自然な交わりの中で、主は多くのことを教えて下さり、言葉にできない多くの恵みを頂きました。

サポートのお願い

当協力は、本会の趣旨に賛同する方々の祈りと献金によって支えられ、運営されております。ご支援いただけます方は、同封の振込用紙、または専用の封筒をご利用くださり、お献げいただきたいと存じます。

日本文化宣教協力会事務局

〒344-0067
埼玉県春日部市中央1-51-7
春日部福音自由教会内
Tel 048-735-4765
Fax 048-735-4726
Eメール y-gospel@tcat.ne.jp

郵便振替

ゆうちょ銀行春日部店
口座番号 00140-9-394018
加入者名 日本文化宣教協力会

日本文化宣教協力会 会計報告

自 2014年3月1日 ~ 至 2014年7月31日

収入の部	支出の部
繰越金 407,923円	事務費 40,872円
献金 147,000円	通信費 7,360円
特別支援献金 19,000円	特別支援金 19,000円
受取謝礼 50,000円	研修費 100,000円
	奉仕活動費 170,781円
	宿泊費 6,669円
	冊子印刷代 40,280円
受取利息 43円	繰越金 239,004円
合計 623,966円	合計 623,966円

備考：

- ①研修費@20,000円/月(5か月分)
- ②名古屋・京都伝道 : 2014年5月10日~13日
- ③清瀬教会奉仕 : 2014年6月15日
- ④気仙沼伝道 : 2014年6月28日~30日

日本文化宣教協力会ニュースを、今後はEメールにてお届けしたいと考えています。メールでの配信を希望される方は、協力会事務局までお知らせください。

編集後記

日本文化宣教協力会 会長 山田 豊
協力会ニュース、第4号をお届けいたします。春日部福音自由教会の教会員、協力会のことを覚えて祈ってくださる方のあることに、心より感謝をいたします。

第4号は、昨年に引き続き訪問いたしました、愛知県の春日井福音自由教会と、宮城県の気仙沼聖書バプテスト教会、そして埼玉県の清瀬福音自由教会での奉仕についてのニュースです。長く無牧であった春日井教会は、この7月に、高橋敏夫先生より少し後に福音自由教会の教職者になられた鈴木健二先生を牧師として迎えられました。新しい宣教の働きが、進められていくことでしょう。気仙沼での奉仕は、日出兄の尽力により、伊達藩筆頭家老であった鮎貝家の屋敷「煙雲館」にて講演会を持つ

こととなりました。子供集会も講演会も予想を上回る多くの方が来てくださり、被災地にありながら、ふれあいと福音を求めておられる方のあることを知りました。

日本における文化宣教は、大切なことであると気づきつつも、なかなか進んでいかないものです。夏から秋にかけては、祖先崇拜と結びついたさまざまな行事があります。偶像を恐れることなく、しかしそこに込められた祖先の思いを大切にしつつ、イエス様の素晴らしさを証しするものでありたいと願っております。

私も、人々が救われるために、自分の利益を求めず、多くの人の利益を求め、どんなことでも、みなの人を喜ばせているのですから。1コリント10:33

2014年10月16日



煙雲館玄関



石州流二代目清水動閑の作と伝えられる庭



庭の見える大広間



文化と宣教

日本文化宣教協力会

主幹伝道者 高橋敏夫

イエズス会のフランシスコ・ザビエルによって日本に宣教が開始されたとき、ポルトガル船と共にヨーロッパの文化が洪水のように押し寄せて、織田信長をはじめ当時の武将たちにポルトガルの異国語と共に生活の変化に影響を与えている。

この時代に日本人は初めて、創造主である神の存在を知るようになった。徳川家康の時代になると、鎖国令を敷いてプロテスタントのオランダを窓口として通商を行うようになる。オランダの、東インド会社を拠点にヨーロッパの文化が日本に入ってきた。

当時、黄金と砂糖の価値は同等で、日本人にとって砂糖は高価なものであったが、オランダ船を通して大量に砂糖が輸入されるようになると、お菓子の文化に多大な影響力を与え、庶民に至るまで甘い菓子を食するようになっていく。

ペリーによって米国の開港の圧力を受けると、幕府は崩壊し、新しい明治政府が誕生するようになった。明治政府は、政治、教育、経済を欧米から学び取るために使節を繰り返し派遣し、新生日本の指導者を生み出している。ここでも欧米の文化が日本列島を包み込んだ。そして太平洋戦争による日本の無条件降伏で戦勝国のアメリカ文化を当然のように受け入れ、戦後69年の日本は、軍事面においてもアメリカ化されてきて、英語による影響は日常生活の当然のここのようになっている。そうした歴史的経過に納得しない人たちは、日本人らしく生きたいという熱い思いを持ち、新しい日本民族主義を生み出そうと夢を抱く傾向を最近強烈に感じている。

日本文化宣教協力会の意識は、キリスト教は欧米の宗教だから関係ないと考えている人たちに、その人たちが抱いている考え方を理解しながら、「私は日本人です」と言って福音から遠くある人々に近づきたい、という願いである。

これはフランシスコ・ザビエルの宣教の動機であり、当時のイエズス会指導者ヴァリニャーノの宣教と文化との深い認識にも共通している。